

■ 岩上さんを偲んで

東京都パワーリフティング協会

理事 中谷 幸市

村野選手と中谷先生。暖かく見守る岩上さん

岩上勝夫さんが4月5日急逝されました。享年71歳。

岩上さんとの最後にお会いしたのは、今年1月12日（日）平成25年度第3回理事会でした。

理事会は国士舘高校会議室にて行われ、10月の東京国体と関東・東京PLの決算報告に対して私と岩上さんで監査報告をして承認されたのが最後の仕事になったようです。

岩上さんはパワー歴50年以上でJPAの創立前からトレーニングをされており、当時のエピソードをよく話してもらいました。相当な古株だと思います。

思い起こせば、2006年USAマイアミにて世界マスターズベンチ大会に一緒に行った時から深いお付き合いが始まりました。

安く上げようと男4人でツインにエキストラベッドを入れ、毎日客人を招き大宴会のとんでもない部屋に変貌させ、そのお陰で私と物江さんが失格してしまう珍道中になってしまった。

岩上さんは私のいびきを“ライオンの咆哮”と言い、川島さんのそれを“風の屁”と言って大笑いをされました。

その腐れ縁の4人は、日本に帰ってからも宴会を続け、メンバーも増やしてついこの間までマスターズ会として常時10人以上が集まり楽しい会になり、パワー大好き人間たちの情報交換の場として交流を深めています。

今、イギリスの世界マスターベンチに参加されている人たちも出発直前の訃報にびっくりされ、交流の深い、澤千代美さんは悲しみの中、『岩上ちゃんも一緒に連れて行ってくる』と言われてました。

帰国されたら、有志で偲ぶ会をしようと即決まりました。

東京協会の理事をされていたことから、東京大会では本校の選手にいつも暖かくお声をかけていただき、特に村野は中学1年生から大会に連れて行っており、中学～高校の成長を見てくださったので、1番に可愛がってもらいました。岩上さんはいつも村野のことを『うちの孫、うちの孫』と言ってくださいました。

昨年11月に公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会 の追加募集にすぐ申込み、受講されたことから、これからも選手・役員をバリバリやっぺいこうと思っておられたことと拝察するに、あまりにも早く旅立たれたことは、本人は無念であろうし、我々にとって本当に残念で悲しい出来事でありました。

私は岩上さんのようにパワーを愛し、生涯現役を通して、普及発展に寄与すべく役員協力、選手育成に鋭意努力していく思いをさらに強く致しました。

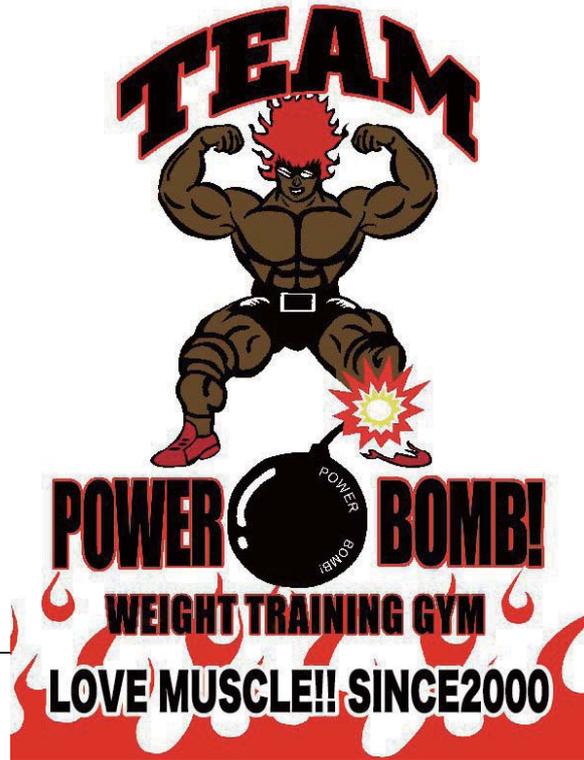
岩上さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

どうぞ、安らかにお眠りください。

そして東京協会ならびに我々パワー人を温かく見守りください。 合掌

(平成26年5月17日記)

power
SCRAMBLE



■ パワー！ボム訪問

レポート：

コマンダー金澤

3月15日の土曜日夕方に10年ちょいぶりにPOWERBOMB!GYMを訪問した。

前に訪問したのが、東海ベンチプレスが岐阜県美濃加茂市で開催されたときに、機材をジムに戻しに行く以来であったので、結構期間があったと訪問時に思う。

ジムの場所であるが、名古屋鉄道犬山線の木津用水（こつつようすい）駅の改札口の前にある交通アクセスが日本一のところにある。世界一と言っても過言ではないかと思うが、国内から出た経験がないので敢えて日本一と表現しておく。

まずはオーナーの長谷川さんについて紹介しよう。

ジムオーナーの長谷川和之さん（以下 大将）のベンチプレスにおける戦績はホームページを参照にされたい。あまりにもタイトルが多すぎるので、ここでは割愛させて頂く。

<http://www.geocities.jp/powerbombgym/index.html>

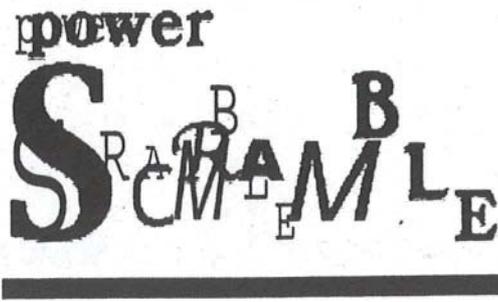
POWERBOMBという名前の由来は、プロレスの技の名前であり1度は聞いたことがあろう「鉄人」ルー・テーズが考案したリバーススラムを改良し、テリー・ゴディーに伝えて完成させたものである。この流れから想像がつくように、少年剣士であった大将はプロレスが大好きな方で、食品会社での勤務を卒業し、2000年4月1日にジムを開設された。

15歳のとき或る事情で手術を受けることになり、50キロあった体重が入院生活の影響で38キロにまで落ちてしまう。丁度その頃テレビでは2代目タイガーマスク(佐山サトルさん)とダイナマイト・キッドの闘いが繰り広げられてた。この選手達に影響されトレーニングを始めた。

ジムの候補地は他にもあったのか訊ねてみた。候補地自体は幾つかあったそうですが、賃借料や交通アクセスなどあらゆる条件を勘案した結果、丹羽郡扶桑町の現在地に決定された。前の道は狭いが人通りは結構あり、徒歩5分程度でMAX VALUEなどのショッピングセンターもあり、非常にいい場所にある。

☆ジム内について

前に訪問したときとレイアウトが少し変わっていたが、どの運動競技をするにも絶対に不足が出ない器材が密集している。テトリスの様に緻密に計算された配置も全て大将が練りに練ったもの。



世界一の品質と使いやすさに定評のある POWERLINE のスクワット、ベンチプレス共用台も星野オーナーが試作段階で出されたシリアルナンバーが1桁のレアものもあり、シャフトがトレーニー当たらない様に交互になる様配置されている。

取材日も会員さんが何人もおられたが、ぶつかりあうことはなかった。また、会員さん同士の距離が近いので、すぐに仲良くなり高重量を扱うときは、お願いをしなくてもすぐにサポートに入って頂けるのも特徴のひとつ。

スクワットラックの中では、スクワットの合間に塩ビパイプに板を乗せ、その上に乗りバランスよく左右に揺さぶったり、静止したり面白いものを見せてくれた、かわいい美少年のまるちゃん。

あと、関西弁で大将に質問をしてる自分に「何で関西の方が話されてるのかな～」と不思議がられ、自分にも気さくに声をかけて下さった方などおられ、POWER WORLD NEWS の取材なんですと説明してバックナンバーを御覧頂いた。解りにくいですが、一番奥には現岐阜県協会事務局長の大原氏が作成されたベンチ台もあったりする。これは、ぎふ清流国体のときにアップ場で使われてた。

ジム内が広いのか狭いかは、使う人の基準が違う為どちらも言いにくいですが、トレーニングを行うにあたっては、何の不満もない。自分の基準であるが、この広さであればサーキットを行うには絶対に最適。これは、前にビジターでトレーニングさせて頂いた時にも大将にお話したことがある。

この日はお会い出来なかったが、ジェット市川さんというユニークな方もおられる。大会では写真を担当されて、週に4日はジムでトレーニングされ国際大会も何度か出場されてる。

ソフトボールやロードバイクなどでトレーニングを併用されてることも解ったが、2月に岡崎に来られるのか直接伺った際に「音響業務はどうやって覚えたの？」って聞かれ、「今、白馬村におられる沖浦さんから教わったんですよ」

と申し上げると、

「実は私もスキーを沖浦さんから教わってるんですよ」

と意外な答えが返ってきた。



20坪の面積にぎっしり設置された器材群、一番奥には大原氏作成のベンチ台

power
SCRAMBLE



そのスキーマのトレーニングにもスクワットは欠かせないそうで……。この原稿を打ってる数日後には世界マスターズベンチプレスに出場される。POWERBOMB!GYM から何名も国際大会に出場されてるが、ジェット市川さんのイギリス入りは 10 か国目であるとのこと。

☆選手サポートについて

大将の選手サポートの特徴としては、可能な限り現地へ赴き補助、セコンドにつかれる。祝祭日が休館日になってるのは、日曜日が大会で集中した際に「日曜しか出来ないことを済ませる」為であるとか。あと、大将のネットワークである選手のセコンドも同様にこなされる。

何年前か、神戸市立中央体育館で開催された全日本ベンチプレスの二日目、福岡県からエントリーされてた藤本麻美選手のセコンドにつかれてるところを拝見した。第 2 試技あたりからバタバタ走りもって、他の選手の記録をメモし最終的に大将が「これ」という重量を決め試技カードに記入。

この大会は自分もしっかり記憶に残ってて、藤本選手の優勝の瞬間を音響ブースで確認出来た。

大将に「名セコンドですね」と申すと、「いや～これが仕事ですから」と謙虚な答え。

サポートを行うのは、地方大会レベルでも大事にされている。今日始めた人でも一緒にチームとして参戦し、喜びをみんなで分かち合うこともモットーの一つとか。

国際大会へのサポートは旅費の都合上簡単にはいかないんで、国旗に寄せ書きされたものを選びに贈ることで「魂のサポート」をされている。自分も私設応援団として寄せ書きをしているが、取材日にジムに貼り付けてあった国旗を見て懐かしさを感じた。

大将自身も国際大会は 2 回出場されてる（記憶の中で）が、最初の出場になった 2006 年はカレンダーイヤーでマスターズ 1 になったことで、- 67.5 キロでドイツでの大会に出場。

減量もきつかったと思われるが、第 3 試技に入る前に「最後にこれを挙げんと 3 位になれん」という執念が表彰台へ立つ原動力となった。周囲の人が選手なのかスタッフなのか全く解らない状況での 1 発勝負であった。

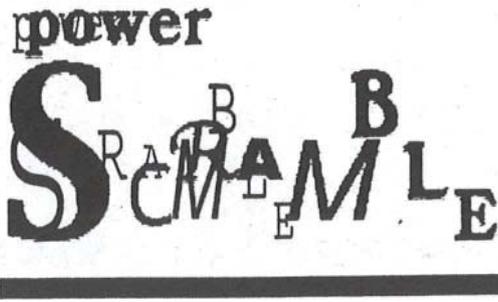


大会から帰国されて暫くしたころ、月刊ボディビル誌でおなじみの男前の栗井直樹先生（数年前他界された）が、入賞のお祝いとして男前シャツバージョン 4 にサインを入れて自分に送って欲しいと託された。

「(サインをしながら) 長谷川くん、今度は優勝やな、コマンドー。よろし～言うといてや」

ということで、贈られたシャツはジム内に吊ってあったが、色あせなどがおこらない様に現在は自宅で綺麗に保存されている。

「なんで関西弁の人が来てるの?と、まるちゃん



☆その他 記憶の備忘録より

★ POWERBOMB! GYM のマークにある爆弾マークは、大将と奥様（女将）が会員さんの心に火をつける導火線の役割を意味し、その爆発力はジムを出てからでも日常生活で発揮出来るように願ってデザインされたもの。

★ ジムのトイレは心が落ち着くように工夫されている（具体的にはビジターとして通って貰うのが一番）。水洗レバー付近に、ドクタークラークの「青年よ 大志

を抱け」の言葉が書かれた札が貼り付けてある。

★ ジムには北側と南側にはモニターが1台ずつあり、それぞれ違う映像が流されている。この日はプロレスの映像と、ボディビルダー合戸孝二さんを特集されたバースデー（東京放送系の番組 近畿では放送されてない）の映像が流れていた。

★ 近畿ブロックでいつも補助員をしてくださってたN谷さんが、仕事が岐阜県内になったんで、どっかいジムないですか？と自分に相談があった。

迷わず POWERBOMB! GYM があるから、ニーズに応じてくれるよと伝え、いの一番に大将に根回ししたことがあった。

★ 取材日が昨秋からなかなか決まらなく、もうあかんかな〜と半ば諦めかけてた際、岡崎で再会したときに、3月15日（土）は北川大五郎くんの応援に一宮競輪場に来るんで、移動日節約の為に何とか時間を頂けないかと交渉。偶然にもこの日がパーソナルが入らなかったことが取材日の決定となった。

★ 取材用備忘録には予め解ってることは箇条書きにして、質問したいことをまとめておいて、出来るだけ短時間に済ませるようにした。取材自体は早く終わったが、プロレスの話で脱線してしまい復旧作業が終わったら、結局1時間半の時間になってしまった。

★ 漫画の世界のことと思ってたが、巨人の星に出てきた養成ギブスに似たものをエキスパンダーのばねを改造して使ってたそうです。

★自分が初めてビジターとしてお邪魔した際、ジェット市川さんがジムの玄関に氷柱を2本用意してくださってた。しかも「熱烈歓迎 コマンドー金澤様」「氷烈歓迎 コマンドー金澤様」とちっちゃな旗が刺さってた。

色んな会場で大将にはお目にかかれるが、ゆっくり話せることが殆どなかったこともあり、今回は非常に充実した楽しい取材になりました。

大将はじめ気楽に応じて頂いた会員さんありがとうございました。

power
SCRAMBLE

■ K's GYM 10周年 記念パーティー

K's 事務が周年を迎え盛大にパーティーが開かれ、多くのパワーリフターが大阪に集結されました。写

真下は、K's 代表の児玉大紀さんの許可をいただき、Facebook から転載させていただきました。ますますのご発展をお祈りいたします。
(編集部、吉田寿子)



写真左は、コマンドー金澤さんから提供いただいた、北川大五郎さんの勇姿です。北川さんも、K's のパーティーに駆けつけられたとお聞きしています。



power SCRAMBLE

■ 佐野義貴さんが 相模原の新聞に大き く報道されました。

情報提供：佐野義貴

野球が大好きで、高校野球では、神奈川の新聞に大きく報道されるなど大活躍していた佐野選手。社会人野球でも活躍が約束されていた矢先、交通事故で、脊髄損傷をおい、車椅子生活に。野球を断念せざるを得なかった無念の思いの中から様々なスポーツに挑み、パワーリフティングと出会い、実力をつけ、ついに、リオパラリンピック候補選手となる、IPC 世界パワーリフティング選手権大会に出場。リオパラリンピックは、世界選手権参加者の中から選ばれる。あと2年、選ばれる基準は、「記録」。記録の高い順に世界のトップから選ばれていく。「リオで輝く姿を見せ、支えてくれた人に恩返ししたい」と。

頑張れ、佐野選手！



●全日本障害者パワーリフティング大会で優勝した

佐野 義貴さん
すずきの町在住 45歳

人物風土記

題字は
相模原市長

自慢の腕で世界に挑戦

○：昨年12月に行われた全日本障害者パワーリフティング選手権大会・下肢障害の部・男子72kg級のチャリオン。ベンチプレスに

寝た状態で上げた、バーベク戦、世界パワーリフティング選手権大会に出場する。強者揃いの海外勢相手に自慢の腕で勝負を挑む。

○：幼い頃から野球漬け

の毎日。高校卒業後は、野なつた人がそうだっただけ球で食べていこうと決めていた矢先、バイク事故で胸から下の感覚を失う。入院時を振り返り、笑顔がこぼれる。妻のサポートを受けながらできることがモットー。一家になった直後は、自暴自棄でするのがモットー。一家を受け入れるしかない現実の事務で働き、家族を養う。愛娘はトレーニング仲間、汗を流した。

○：「上げれば勝ち」ところ、走るよりも筋トレが好きだったため、パワー部分が多く、不利なはずだリフティングを選んだ。練習を重ね、記録を伸ばすことで自分にもできるという自信につながった。

○：妻と3人の子どもの5人家族。妻は「障害は関係ない」ときっぱり付き合う前に、本当に自分で良いかと念を押し、それでも妻は「たまたま好きに返しがしたい」

「たまたま好きになった人が車椅子の人だけ」
と、佐野選手を支える奥さんや家族の支援を受けて、羽ばたく佐野選手。